

神戸市看護大学 第17回国際シンポジウム報告

精神疾患をもつ人々への在宅ケアシステム ～米国システムの障害と神戸の現状～

◆基調講演

講師：上月 頼子先生 Dr.Yoriko Kozuki
ワシントン大学看護学部精神看護学 准教授



◆パネルディスカッション

パネリスト：

玉井 光恵 先生：神戸市こころの健康センター 地域精神保健福祉担係長
岡田 美紗 先生：みなとがわ訪問看護ステーション 保健師
中谷 恭子 先生：兵庫県光風病院多職種多機能チーム 臨床心理士

日時：2016年（平成28年）

1月23日（土）

14：00～17：00

場所：大学共同利用施設

UNITY

神戸市西区学園西町

1-1-1 ユニバープラザ2階

年1回開催している国際シンポジウムも17回を迎え、116名の方にご参加いただきました！

基調講演では、『米国のコミュニティメンタルヘルスと看護について』をテーマに、上月頼子先生にご講演いただきました。上月先生からは、ワシントン州における精神疾患の有病率や入院期間、精神疾患患者家族会、メンタルヘルスホームケアなどのお話がありました。また、米国では、メンタルヘルスケア専門職者の不足が深刻な課題とされており、看護師が高度実践の担い手として求められている実情を踏まえて、ワシントン州における高度公認ナース・プラクティショナー（ARNP）の実践活動などについてもお話いただきました。

パネルディスカッションでは、「上月先生と神戸の実践を語る」と題して、まずは3名のパネリストの先生方にご講演いただきました。玉井先生からは「精神疾患を持つ人が地域で生活していくための支援」、岡田先生からは「精神科訪問看護の取り組みの紹介と課題」、中谷先生からは「在宅支援に向けて」と、異なる立場、異なる視点から神戸の実情について語っていただきました。

パネルディスカッションでは、アメリカの看護職の高度な教育や実践への羨望が語られた一方、わが国の方が福祉サービスや訪問型サービスが実は使いやすいなどの点も確認できました。また、学童のころから統合失調症等は予防が可能であるという上月先生のお話から、早い段階からの予防の重要性も話し合われました。

